

エッグと豊生ら・ばるかが連携

障害者就労へ実践的訓練

豊橋のとんかつ店で始まる



洗い場で就労訓練を行う訓練生たち

豊橋市可山(セブツ)の「かつ寺可山(セブツ)」

障害者の就労に結び
 つく実践的な訓練を
 と、オムライス店やと
 んかつ店を4店舗運営
 する有限会社「エッグ」
 (豊橋市西口町、加藤
 ゆり子社長)の各店舗
 が愛知障害者能力開
 発校の委託を受けた。
 同社と社会福祉法人
 「豊生ら・ばるか」が
 連携した3カ月の長期
 就労訓練が17日、同市
 向山大池町のとんかつ
 店・かつ時で始まっ
 た。

障害者に就労意欲が
 あつて、長年(就労)

障害者の就労に結ぶ
 ことができる場が少なく、と
 くはサービス業での就
 労は極めて厳しいのが
 現状。実践的な訓練の
 場が少ないのも要因の
 一つ。

今回、障害者の自立
 訓練の場を探してい
 た、夏目浩次・豊生ら
 ・ばるか常務理事と加
 藤社長が出会い、連携
 合意にこぎつけ、エッ
 グの店で知的障害者の
 就労訓練を受け入れる
 ことになった。

第1弾は、かつ時豊
 橋店で、3人(男性2
 人、女性1人)を

入れ。松井貴紀店長や
 スタッフも全面協力
 し、洗い場での食器洗
 いなどの訓練からスタ
 ートした。

お客さんが食べ終え
 た後、次々と運ばれて
 くる食器を、3人の訓
 練生は、スタッフも驚

くほど元気良く、テキ
 パキと洗浄。女性訓練
 生は「ら・ばるかでも、
 パン製造後の器を洗っ
 ていましたが、こうい
 うお店で、いろいろな
 食器を洗えるのは、本
 当に楽しい」。

エッグの加藤社長は

「他の店舗にも展開し
 ていきたい」、豊生ら
 ・ばるかの夏目常務理
 事は「これからも、埋
 もれてしまっている障
 害者の可能性を広げる
 環境づくりに励みた
 い」と話していた。

(杉浦文夫)